

患者・市民とともにあゆむ J-SUPPORT ～支持・緩和・心のケア開発を目指して～

登壇者プロフィール



総合司会：松本 陽子

愛媛がんサポートおれんじの会

高校3年生のときに父親をがんで亡くし、その後33歳のときに自身が子宮頸がんに罹患。2008年、愛媛でがん患者と家族の会を設立し翌年にNPO法人化。愛媛県からの委託を受けて、仲間と共にピアサポート事業などに取り組んでいる。
一般社団法人全国がん患者団体連合会理事、緩和ケア委員会委員長



開会挨拶：島田 和明

国立がん研究センター中央病院長

1982年京都府立医科大学卒業後、東京大学医学部第2外科に入局。1990年から国立がん研究センター中央病院肝胆膵外科医として従事、1000例以上の肝胆膵外科手術を行う。2020年4月から同病院長に就任。AMED革新的がん医療実用化研究事業にて、肝胆膵外科領域の研究開発「根治が見込めるがんに対する外科侵襲の軽減とQOL改善を目指した標準治療法確立のための多施設共同第三相試験」の研究を実施。



J-SUPPORT紹介：内富 庸介

国立がん研究センターがん対策研究所
国立がん研究センター中央病院支持療法開発部門長／
J-SUPPORT

1984年広島大学医学部卒。88年国立吳病院・中国地方がんセンター精神科医師としてがん患者の精神的ケアに携わり、91年米国スロンケタリングがんセンター記念病院で精神的ケアについて研修。93年広島大学医学部神経精神医学教室に転任し、がん患者のクオリティオブライフ（生活の質、生命の質）に関する医学教育に従事。95年国立がんセンター精神腫瘍学研究部の創設に携わる。2010年4月より岡山大学精神医学教授、2015年1月より現職。生命の危機に伴う抑うつ対策とその機序解明、そして生命に向き合う精神医学の教育研修を使命とする。専門は、がんの診断後に生じる落込みや不安のケア。日本サイコオンコロジー学会副代表理事。



閉会挨拶：中釜 齊

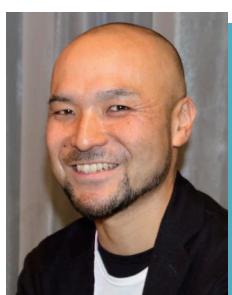
国立がん研究センター理事長

1982年東京大学医学部卒。1990年同大学医学部第三内科助手。1991年から米国マサチューセッツ工科大学がん研究センター・リサーチフェロー。1995年以降国立がんセンター研究所発がん研究部室長、生化学部長、副所長、所長を歴任。2016年4月より国立がん研究センター理事長・総長。ヒト発がんの環境要因、及び遺伝的要因の解析とその分子機構に関する研究に従事してきた。分子腫瘍学、がんゲノム、環境発がんが専門。

セッション①（緩和治療） 専門的緩和ケアを早めに利用する～J-SUPPORT 1603

〈研究概要〉

専門的緩和ケアをがん治療の早期から行うことで QOL※を改善し、うつや不安を軽減することが海外の研究で報告されています。海外と日本では医療制度や文化背景が異なるため、日本のモデルを確立するために、緩和ケアを専門とする看護師を中心とした専門的緩和ケアプログラムの介入の効果についてランダム化比較試験を実施しました。専門的緩和ケアを早めに利用することの意味やその実際についてお話をしたいと思います。※QOL: Quality Of Life, 生活の質



清水 佳佑

肺がん HER2「HER HER」

デザイン会社にて、デザインマネジメントや工業製品、グラフィックデザインからプランディング、まちづくりなど総合的なデザイン業務に従事中、2017年に肺腺がんを罹患。2018年に遺伝子に特化した患者会 肺がん HER2「HER HER」を立ち上げる。現在、化学療法にて治療を行いながら、患者当事者の声を届ける為、アドボカシー活動中。



山田 富美子

特定非営利活動法人市民と共に創るホスピスケアの会
関東通信病院（現・NTT東日本関東病院）で看護師として12年間勤務。2005年より、NPO法人市民と共に創るホスピスケアの会で、がん患者・家族の支援活動や市民へのがん医療、緩和ケア、がん対策などの啓発活動を行っている。



松本 権久

国立がん研究センター東病院緩和医療科 /
J-SUPPORT

緩和医療専門医、ペインクリニック専門医、麻酔科専門医。専門は、緩和ケア、ペインクリニック。
2006年金沢大学医学部医学系研究科がん医学科学専攻博士課程卒業。2007年より国立がん研究センター東病院緩和医療科がん専門修練医、医員を経て、2018年より緩和医療科長。
日本緩和医療学会代議員、日本サイコオンコロジー学会代議員、日本ペインクリニック学会評議員。



小林 直子

国立がん研究センター東病院 看護部

2008年まで順天堂大学医学部附属順天堂医院に勤務。2010年順天堂大学大学院医療看護研究科終了。2010年より国立がん研究センター東病院緩和ケア病棟に勤務。2011年がん看護専門看護師の認定を受ける。2013年より緩和ケアチーム専従看護師として活動している。患者さんとご家族と関わらせていただく中で、がんと診断された時からの緩和ケアの大切さを強く感じて、日々学びながら実践している。

【研究概要】

どのような治療やケアを受け、どこで過ごしたいのか、患者さんがご自身の意向を事前に考え、主治医やご家族と話し合うプロセスであるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)により、標準的な抗がん治療の後に、患者さんが希望する治療やケアを受けることが可能となります。しかし、不安な気持ちや、先のことを後回しにしがちなことから、多くの場合ACPを行えていません。今回、私たちはACPのきっかけとなるパンフレットを作成し、支援を行いました。その結果、患者さんが不安になることなく、主治医と共に感的に情報共有に関する対話を実現したこと、またその話し合いに満足されることがわかりました。

眞島 喜幸

特定非営利活動法人パンキャンジャパン 理事長

1948年東京生まれ。オタワ大学、カリフォルニア大学ロスアンゼルス校(UCLA)を卒業後、同大学の博士号課程に進み、Rand Corporationにて健康政策分析プロジェクトに参画。医療・教育ソフトウェアの企業で医療関係者を対象とするソフトウェア事業を始めたのち、出版社の新規事業開発を支援。2006年4月に実妹をすい臓がんで失くし、この年、PanCAN Japanを設立。家族性膀胱癌の疑いのある

IPMN患者として経過観察してきたが、2012年に膀胱癌の疑いが濃厚となり膀胱全摘手術を受けた。病理診断はステージ0。膀胱がんサバイバーとしてドラッグラグ問題解消、研究者支援に向けた活動などを精力的に進めている。



古谷 佐和子

特定非営利活動法人パンキャンジャパン

「乳がん」「胃がん」「舌がん」「肺臓(すいぞう)がん」の4つのがんを経験した母親をもつ。2017年秋に、母と叔母を肺臓がんで相次いでなくす。大学卒業後、教育系出版社で教材開発等に従事し、その後、社会人教育の企画制作等を行う。2009年にパンキャンジャパンに参画し、これまでに「肺臓がんの概観」「IC 膀胱がんインフォームドコンセント」等の書籍を刊行。膀胱がんという難治性のがんへのよりよいサポートを目指して、活動している。

藤森 麻衣子

国立がん研究センターがん対策研究所支持・サバイバーシップTR研究部/J-SUPPORT

公認心理師／臨床心理士。専門は、精神腫瘍学、臨床心理学、行動科学。2004年早稲田大学大学院人間科学研究科満期退学。その後 2010年まで、博士研究員として、国立がん研究センター、シカゴ大学、米国スロンケタリングがんセンター記念病院、理化学研究所。2011年臨床心理士として国立がん研究センター中央病院。2013年から国立精神・神経医療研

究センター精神保健研究所自殺総合対策センター適応障害研究室長。2017年国立がん研究センター 社会と健康研究センター健康支援研究部室長。2021年より現職。日本サイコソロジー学会理事。



尾阪 将人

がん研有明病院肝・胆・脾内科

1999年防衛医科大学校卒。2007年よりがん研有明病院化学療法科。2013年より現職。がん薬物療法専門医・指導医として肝胆脾・GISTなどの希少癌のがん薬物療法に従事。膀胱癌化学療法に関する臨床試験に取り組むとともに、進行の早い膀胱患者支援の研究に取り組み、膀胱診療ガイドラインにおける支持緩和療法の取りまとめを行なっている。

総合討論

安部 正和

浜松医科大学医学部産婦人科学講座 /J-SUPPORT

1998年浜松医科大学医学部卒、医学博士。2010年～静岡がんセンター婦人科勤務、2021年より現職。婦人科腫瘍専門医・指導医として婦人科がんの手術・薬物療法に従事し、臨床研究では化学療法誘発性悪心嘔吐を主な研究テーマとしてJ-SUPPORTやJASCCを中心に活動している。シスプラチニンに対するオランザピンを用いた新しい標準制吐療法を確立したJ-SUPPORT 1604 (J-FORCE STUDY) の研究代表者を勤めた。



天野 慎介

一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長

1973年東京都生まれ、慶應義塾大学商学部卒。2000年27歳のときに悪性リンパ腫を発症し、自身的経験をもとにがん患者支援活動に関わる。現在、一般社団法人全国がん患者団体連合会理事長、一般社団法人神奈川県がん患者団体連合会理事長の他に、厚生労働省厚生科学審議会がん登録部会委員、先進医療技術審査部会構成員、患者申出療養評議会議構成員、がんゲノム医療推進コンソーシアム運営会議構成員などを務める。

岩澤 玉青

リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット)、乳がん体験者の会「マリアリボン」

大阪府出身。大手電機メーカーにて18年勤務し、海外営業・マーケティング、経営企画に従事。2012年 乳がんを罹患、2013年 リンパ浮腫を発症。聖マリアンナ医科大学病院 乳がん体験者の会「マリアリボン」共同代表、リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット)代表。神奈川県がん患者団体連合会 監事。2019年に設立したリンネットでは、リンパ浮腫に関わる全ての人が困ることなく安心して過ごせる社会に向けて、リンパ浮腫の患者支援と治療環境の改善を目指して活動をスタートさせた。



勝井 恵子

国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
研究公正・業務推進部 研究公正・社会共創課

2007年お茶の水女子大学文教育学部卒業。2009年東京大学大学院教育学研究科修士課程修了、2015年同大学院博士課程単位取得満期退学。2017年博士(医学)。東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野を経て、2017年よりAMED 勤務。医療研究開発における患者・市民参画をはじめとするダイバーシティ推進、持続可能な開発目標(SDGs)や倫理的・法的・社会的課題の対応等に関する業務に従事している。

開催日時: 2021年12月5日(日)13:30～16:30

申込先: <https://ws.formzu.net/dist/S3261237/>

※お申込み締切: 2021年11月24日(水)17:00まで



【主催】J-SUPPORT 日本がん支持療法研究グループ

【共催】一般社団法人 全国がん患者団体連合会

【運営支援】キャンサー・ソリューションズ株式会社